

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490900018		
法人名	社会福祉法人 積善会		
事業所名	グループホームやすらぎの里		
所在地	豊後高田市呉崎775-10		
自己評価作成日	平成28年2月1日	評価結果市町村受理日	平成28年7月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成28年3月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

劇団「白ねぎ隊」を通じて認知症の啓発活動に取り組んでいます。1人ひとりの入居者の想いを大切にしながら、今できることを一緒に行いワクワクすることを届けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・事業所の職員で劇団「白ねぎ隊」を結成している。市や福祉事務所から依頼があり、学校や地域住民に対して寸劇を通して、認知症についての啓発活動に取り組んでいる。
 ・理念のほかに、利用者様満足度実現のための5宣言を掲げ、一人ひとりの思いや意向をくみ取り、実現に向けて取り組んでいる。
 ・日常生活の中のワクワク感を大切にしており、年に1回、1泊旅行を計画し全員で出かけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は常に見れるように廊下、玄関に掲示している。職員の名札に記載している。	理念を玄関や廊下に掲示し、職員の名札の裏にも記載しており、毎朝確認している。全職員で、申し送りや月1回の会議の時に振り返り、日々のケアにつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校の行事に参加させて頂き交流を深めている。	劇団「白ねぎ隊」の認知症の啓発活動、ボランティアや中学生の職場体験の受け入れや、老人クラブの方と門松づくりやクリスマス会で交流している。また、小学校の入学式に手作りクッキーをプレゼントしたり、運動会に参加するなど交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての正しい理解や援助方法等劇団を通して啓発活動に取り組んでいる。法人内で月に一回オレンジカフェを開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し活動報告を行い参加者の意見を反映している。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。老人会、自治委員、家族、入居者、市担当者、地域包括職員などの参加があり、活動報告をし意見をもらうようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	福祉事務所や市からの劇の依頼を受け啓発活動を行っている。定期的に発行しているやすらぎ便りを行政に持参している。	劇団「白ねぎ隊」での啓発活動を通して、市や福祉事務所と協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で委員会を開催しており共有認識と安全に配慮している。	法人内の専門委員会が月1回があり、事業所でも身近な話題を取り上げ身体拘束をしないケアの共有認識向上を図っている。また、法人内外の研修に参加し、身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の行動や声掛けに対して日々のケアを振り返り意見を出し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を通して学ぶ機会を作り理解を深めるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にケアの方針を説明をさせて頂き改定等は家族会を開催し説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置しており要望等を伺っている。家族会で意見等を聞き取り運営に反映している。	面会時や電話、家族会のおりに聞いたり、玄関に意見箱を設置し、意見、要望を出しやすいよう配慮している。家族より、リハビリの要望があり、職員で話し合い、法人内のOTに相談し生活の中に取り入れるなど、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議で意見等言える環境を作りまた管理者が一人一人の話を聞く時間を作りようにしている。	毎月の会議で職員全員から意見、要望を聞いている。行事のプランなどの提案があれば話し合い、運営に反映している。また、管理者は、個人面談を行い職員の意見などを聞くなど、働きやすい職場環境に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は働きやすい環境に努めて下さりモチベーションを下げないように配慮して下さる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加させて頂き機会を設けて下さっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大分県老社協の研修に積極的に参加させて頂き他施設の取り組みを持ち帰りケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族が入居に対して不安を感じている時は要望を十分にお聞きし不安の軽減を図り信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、ケアマネがサービス導入までの経緯についてゆっくりお聞きしている。ご家族様が不安に思っている事を把握し、要望に応えられるように信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族に思い、状況等十分に確認しながら関係機関担当者等とも協議しあい、改善に向けた支援の提案や必要なサービスに繋がられるように対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居されている方々は人生の大先輩であり、生活歴等把握したうえで職員が情報共有し利用者と共に食事作り、洗濯、屋内外活動等を行いながら「想い」に添って信頼関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時利用者様の暮らしの出来事や気づきを報告し施設での活動の写真と園だよりを送り情報の共有に努めている。ご家族様に対応方針を報告しながら納得していただける支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の方の友人や知人、親戚など定期的に面会に来られる。ドライブ等利用者の望まれる場所をお聞きし故郷方面へ出かける様にもしている。	本人の要望を聞き、故郷訪問で、自宅や墓参りなど馴染みの場所に出かけ、家族や親せき、近所の人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が共有場所で出来るレクや掃除、洗濯、食事の準備が一緒に出来る様、雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転院された方がいても関係機関との情報交換等行い定期的にお見舞いに行き、様子を伺っています。お亡くなりになった方もおられ、お通夜、葬式にも参列させて頂いた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関わりの中で声を掛けご本人の意向の聞き取り、把握に努めている。又、聞き取りの難しい方には昔得意だったことや趣味を実践し、シートに記入し本人本位の検討を行っている。ご家族にも意向を聞いている	思いや意向を日々の関わりの中で聞き取り把握に努めている。聞きとり困難な方には、気持ちシートに記録し、家族の意向も聞きながら、全員で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に出来る限りこれまでの生活歴・個性や価値観等の情報を伝えてもらい職員全員が共有できるように努めている。ご家族参加のカンファレンスを開き、昔の事などを聞き、職員に共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の介護計画書を各勤務者がチェックし現状把握するように努めている。又、新たな発見があった場合は職員全員が共有できるように伝達、スタッフミーティングで報告を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の職歴やこれまでの経験、得意な事を活かし入居者の方やご家族の思いが反映できるように心がけている。会議にて職員全員で担当の入居者の実践報告や意見交換を行い共有を図っている。	面会時や電話で家族の要望を聞き、担当職員の支援シートを基に実践報告を聞き、全職員で検討し介護計画を作成している。また、月1回モニタリングを行い、変化があれば見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や、カンファレンス時に担当職員より実践状況を聞きそれを基に介護計画書の評価や見直しを行っている。又、担当職員が入居者一人一人の「支援シート」を作成し情報共有を行ない、実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況を踏まえ通院等、必要な支援を行っている。又、一人一人のニーズに応えられるようにスタッフが外出支援の付き添い等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じ各関係者から地域資源の聞き取り把握を行っている。又、地域の方にはグループホームを知って頂き協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の付き添いが可能な場合は職員も付き添いを行い状態を細かく伝えるように行っている。受診後は家族・職員間で情報共有を図っている。協力医療機関が往診を行っている。	2週間に1回、協力医療機関の往診がある。かかりつけ医や専門医の受診は家族付き添いに職員も同行し情報提供している。事業所と各医療機関との連携ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内に看護職員がおり急変時等の支援を受け入れられるように体制をとっている。又、日頃より連携を図り入居者の健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の方が入院中、職員はGHIにて生活が継続できるように定期的に面会を行い、入院中の生活状況が把握できるように対応している。又、想起の退院が出来るようにご家族の意向を含め入院先医療機関との連携を深め調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化や終末期の希望を確認し記録として残している。又、退院後等定期的に意向の把握を行っている。	契約時に重度化や終末期について家族に意向を聞き記録に残している。看取りは行っていないが、事業所のできることを説明し、状態の変化に伴いその都度家族と話し合い支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	誤嚥吸引、タッピング方法、外傷等の応急処置は対応できるように研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の指導で避難訓練を行い1回は夜間想定で火災訓練を行っている。月1回施設内で避難訓練の実施を行っている。運営推進会議を通じ災害時の協力を依頼している。災害時の備蓄を行っている。	年2回消防署の指導で防災訓練を行い、1回は夜間想定で利用者も一緒に避難訓練を行っている。月1回施設内で火元の場所を変えながら、避難訓練を行っている。備蓄も有る。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	情報が漏れないよう個々の情報は外部の目に触れないような場所に保管してある。排泄誘導の際は声掛けをその方の耳元で小声で行っており、入浴の際なども人目の付かない場所で行っています。	日々の関わりの中で、声掛けは目を見てゆっくり話すよう気を付けて支援している。排泄誘導時には、恥ずかしくないよう小さい声で声かけするなど、誇りやプライバシーを損なわないよう対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話や生活の中で個々の行きたいところやしたい事を聞き取ったり感じ取り希望に沿ったレクリエーションを実施しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のその日の体調や気持ちを尊重しその方らしい生活が送れるように支援させていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の服等を本人様に選んでもらえるように配慮し個々の尊重を図っています。女性には外出の際は化粧や整容にも力を入れていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態は、利用者様の体調や嚥下状態に応じ個々の好みを聞き取り、毎週1回喫茶店・レストラン方式で準備や片付け等も一緒に行う事で楽しんで頂ける様に心掛けている。	毎週土曜の昼食を、レストラン風にテーブルクロスを掛け、花を飾るなど工夫し、準備や片づけを一緒にしている。また、法人内のオレンジカフェの企画に月1回参加し、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量や水分摂取量を日々記録・観察し全職員間で共有し、一日に必要な摂取量に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の能力や口腔状態に応じた介助、見守りを行い口腔内の観察も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況を全職員で把握しトイレ誘導にて自立にむけた快適な支援を行い、その方に応じた排泄物品を使用している。	排泄パターンを把握し、チェック表を基にトイレ誘導し、排泄の自立に向けた支援をしている。オムツ使用者はおらず、夜パッドを使用している人も日中は布パンツで過ごしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝起きられたら牛乳等の水分を毎日1杯提供し、おやつにバナナやサツマイモを提供している。排泄時には腹部マッサージをする等している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人に合った時間に入浴していただいている。入浴前・入浴中・入浴後にしっかり声掛けをし快適な入浴時間を過ごしていただけるよう配慮している。	基本は週2回だが毎日入浴する人もおり、入浴時間も午前・午後・夜と利用者の状態やタイミングで対応できるように工夫している。重度の方も対応できるよう設備が整っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕方からアロマ音楽を流し入眠を促す。眠れない時は温かい飲み物の提供をし入眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間でお互いに服薬する方の確認を声に出して服薬後もその場を離れず飲み込みの確認を必ずしてから離れるように対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の体調や気分などに合わせながらご本人様の得意な事や趣味などを生かしてレクレーションに取り入れている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気が良い日などは普段行かないような場所に出かけ季節を感じて頂ける様定期的に外出を行っている	犬の散歩や買い物、四季折々の花見に出かけたりしている。また、年に1回全員で1泊旅行に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持はご家族の協力を得てご本人様に安心していただけるように少額のお金を所持されている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に年賀状や手紙を送られている。ご希望があれば電話をかけられている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔にし整理整頓を意識し綺麗な空間で過ごして頂けるよう努めている。季節を感じて頂けるように季節の飾り付けや行事・外出があった際は写真などを飾り思い出しに努めている。家庭で過ごしているような雰囲気作りを環境作りに努めている。	利用者一人ひとりの年頭の言葉を飾っている。手作りの作品や季節感のある飾り、行事などの写真が飾られ、窓が広く明るい開放的な空間になっている。また、ソファが置かれたゆったりと過ごせる空間もあり、犬と触れ合える場所がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	新聞を読んだり、テレビをゆっくり見られるようにソファを設置している。料理を好まれる方には、米研ぎや一部副食の盛り付けをして頂いている。洗濯物をたたんで頂くなどの作業もして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用しておられた家具や寝具を使用し、家族の写真や季節感のある飾り付けをし、安心して暮らして頂けるように配慮を行い、換気や加湿などにも気を配り環境作りに努めている。	使い慣れた家具や家族の写真、飾りつけなど一人ひとりに合った居心地の良い部屋作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには、「トイレ」と書いたり張り紙をし、トイレ内にも「指を挟まない様に気を付けて下さい」との張り紙をすることにより、注意を呼び掛けている。物の配置にも気を配り危険防止の為の環境整備に努めている。		